

第7支会

1 地域の概況

第7支会（成木地区）は、青梅市の最北部に位置し、北側の成木山陵、南側の雷電尾根・北小曾木山陵、真ん中の白岩尾根に囲まれた東西約17km、南北約2.5km、面積22.5km²という広大な面積を有しており、成木1丁目で埼玉県飯能市畑・直竹地区、第6支会の富岡地区と隣接しているほか、千賀村峠、吹上峠、榎峠、小沢峠を通じて第6支会、第5支会および埼玉県飯能市名栗地区と接している。

地形は、東部は平坦地であるが、中・西部は広葉樹と針葉樹に囲まれた山間地で、中央部を黒山（標高842m）を水源とする全長17km余の成木川が流れ、雷電山（標高502m）を水源とする北小曾木川が成木市民センター東側で合流し、その後直竹川、黒沢川と合流し、入間川、荒川を経て東京湾に注いでいる。

また、地区の中央を都道青梅～秩父線と軍畑～飯能線が通っている。西部の高水山は、秩父多摩甲斐国立公園の東側の玄関口に位置し、平成6年6月に皇太子殿下・雅子妃殿下が登山された。

地区の産業は、以前は織物業や林業が盛んであったが、現在は、東部地区では水田や野菜を中心とした畑作が盛んであったり、特別養護老人ホーム等が5施設存在し、中・西部地区では碎石業が行われている。地区内に産業が少ない

ことから若年層は就労場所を求めて地区外に転出しているため、少子高齢化傾向が急速に進んでいる。

少子化に伴い、成木保育園では地区外からの園児の入園を推し進めて経営が成り立っており、成木小学校でも平成21年度から小規模特別認定校制度を導入して地区外から児童の通学を認めている。さらに第七中学校でもクラブ活動等に支障をきたしている状況にある。

このほか、第7支会地区の公共下水道事業は平成31年度に事業が完了する計画となっており、より早い時期の供用開始が切望されている。

また、当地区は、採石場や残土搬入で大型車の交通量が頻繁な地区でありながら、数箇所において大型車同士のすれ違いが困難な場所があり、場所によっては歩道もなく危険な状況にあり、市や東京都と連携して道路の拡幅と整備に取り組む必要がある。

2 地域の歴史

明治22年市町村制施行により、下成木村下分、下成木村上分、上成木村下分、上成木村上分、北小曾木村の5村が統合され「成木村」が誕生した。当時は神奈川県西多摩郡に属していたが、明治26年に東京府に編入され、その後昭和18年東京都となり、昭和30年青梅市に編入合併し、現在に至っている。

明治10年（武蔵国多摩郡）当時と現在の世帯、人口を比べると以下のとおりである。

村名	明治10年		平成22年（1月）	
	世帯数（戸）	人口（人）	世帯数（戸）	人口（人）
下成木村下分 （成木1丁目）	48	329	290	557
下成木村上分 （成木2丁目）	47	273	393	592
上成木村下分 （成木3、4、5丁目）	158	862	261	636
上成木村上分 （成木6、7丁目）	105	666	111	319
北小曾木村 （成木8丁目）	75	488	106	266
計	433	2,618	1,161	2,370

世帯数は特別養護老人ホームができたことなどから増加し2.7倍となったが、人口は少子化などから約1割減少している。

成木の歴史は古く、およそ7～8千年前の縄文時代に成木川沿いに集落がつけられたと言われている。成木1丁目の安楽寺に伝わる大般若経は永和4年（1378）以前のものとされ、成木7丁目の延命寺境内の地蔵に永和5年（1379）の銘が刻まれていることなどから、この年代にはおおむね集落ができていたと思われる。武蔵風土記にはこの地を支配していた三田氏の領内に下成木村、上成木村、北小曾木村の存在が記述されており、江戸時代初期には村が存在していたことが窺える。

成木の歴史に欠かせないのが石灰の生産である。石灰焼きは天正18年（1590）に地元の4人の地侍達によって始められたと言われ、慶長11年（1606）に江戸城大改修に成木の石灰が用いられ、その後も日光東照宮、名古屋城、二条城および大阪城の白壁材として使用され、地元には大金が入り、村の人にとって貴重な収入源であったようだ。石灰を運ぶのに成木街道（後に青梅街道）や伝馬制度が整備され、多摩地方の発展に大きな影響をもたらした点も見落とせない歴史である。

悠久の歴史が育まれるなかで、成木地区の文化遺産として、成木1丁目の安楽寺は和銅年間（708～714）に僧行基が軍荼利明王を彫刻して安置したのが基となったと記されており、境内は都指定史跡に、大杉は都の天然記念物に、金剛力士立像、愛染院扁額が都の有形文化財に、



安楽寺と都の天然記念物の大杉

北条氏の禁制状、鐘借用状が市の有形文化財に指定されている。

また、成木3丁目の成木熊野神社は、元亀2年（1571）の創建で、境内は昭和53年に東京都史跡に指定された。毎年10月の第2日曜日に寛永年間（1624～1643）に始まったと言われる市無形民俗文化財指定の獅子舞が奉納される。

成木6丁目の慈眼院には、市の有形文化財に指定されている文安2年（1445）の古文書があるほか、石灰焼きを始めた木崎平次郎の墓や屋敷跡、市の史跡になっている窯跡がある。成木7丁目の高水山獅子舞は市の無形民俗文化財で、1795年に奥多摩町大丹波から秘伝巻物をいただき、以来脈々と受け継がれ、4月の第2日曜日に高水山山頂で行われる例大祭で奉納されている。

成木の永い歴史の中で、特筆すべき点は学問への情熱である。江戸末期から明治初期にかけて庶民の間で教育に対する関心が高まってきていたが、成木地区は明治5年8月の学制発布を受けて、翌明治6年成木1丁目の安楽寺に甘露学舎が、同年成木7丁目の上成木神社を仮校舎として「上成木学舎」が、また、成木8丁目の正澤寺に「正澤学舎」が開設され学問への礎を築き、以来幾多の変遷を経ながら、成木の教育の拠点として人材を育んだのである。

3 支会活動

成木地区の自治会は、昭和32年の自治会発足時に11の自治会があったが、昭和42年に町名が変更され、昭和44年に自治会も丁名に変更し、平成15年4月に8丁目の3自治会が、さらに平成17年4月に7丁目の2自治会が一つの自治会に統合し、現在の8自治会となった。

昭和60年と現在の世帯、人口および自治会加入世帯数を見ると以下のとおりである。

自治会名	世帯数(戸)		人口(人)		自治会加入世帯数(戸)	
	昭和60年	平成22年	昭和60年	平成22年	昭和60年	平成22年
成木1丁目	310	290	709	557	121	130
成木2丁目	110	393	483	592	98	108
成木3丁目	108	119	424	309	100	97
成木4丁目	71	68	188	137	41	30
成木5丁目	75	74	306	190	72	65
成木6丁目	39	39	166	119	42	35
成木7丁目	77	72	306	200	77	64
成木8丁目	99	106	392	266	99	84
計	889	1,161	2,974	2,370	650	613

特別養護老人ホームが増加したことにより世帯数が増加した一方、少子化などから人口は減少している。自治会世帯加入率は52.8%であるが、施設入居者を除くと88.8%である。

役員構成は、支会長1人、副支会長2人、会計1人、会計監事2人、理事2人である。

支会は、自治会相互の連絡協調を図るとともに、住民の福祉向上、生活環境の整備および住民相互の親睦を図るため様々な活動を行っている。

(1) 研修視察

支会および自治会の健全な発展に資するため、自治会長の研修視察を実施している。

(2) 環境美化等の推進

毎月の美化デーに道路等の清掃を行うほか、5月と12月にクリーンアンドスリム大作戦を行っている。また、全自治会で、毎年6月に成木川の清掃を実施し、支会で交付金を交付して支援している。さらに、地元駐在と連携し不法投棄の防止活動も行っている。

(3) 健康・体力増進活動

地区住民の健康・体力増進を図るため、体育振興会が市民運動会等各種スポーツ大会を実施するとともに、成木漁業組合の協力を得て青少年育成のためマス釣教室を実施している。

(4) 文化事業

地区の文化祭を開催するとともに、成木農業

者振興会およびJA西東京成木支部の協力を得て農産物共進会を実施し、文化の向上および地域の活性化を図っている。

(5) 自主防災組織等の充実と協力

防災意識の高揚、災害時の避難など地域防災態勢の確立を図るため、例年8月に地域住民が参画した防災訓練を実施している。

また、安全・安心の会は、小・中学校、同PTAおよびふれあい巡視員と連携して防犯パトロールを実施するとともに、標語看板を設置し啓発を行っている。

(6) 青葉会

隣接する第6支会と第7支会の自治会長で青葉会を組織し、年2回懇談会を開催し、共通する福祉、健康、安全等の諸問題について意見交換を行っている。

(7) その他

市民の福祉向上のため青梅市社会福祉協議会等が行う募金活動に積極的に協力するとともに、市の周知物の回覧、青梅交通安全協会、青梅防犯協会、青梅防火防災協会の事業にも協力を行っている。

また、地区が抱える児童・生徒数の減少問題、土砂災害特別警戒区域指定に伴う問題、都道の拡幅問題および冬の路面凍結防止等の問題に取り組んでいる。

4 各種団体と事業

(1) 体育振興会

支会長が会長で、他の自治会長、各自治会の体育委員および青梅市体育指導委員の総勢 31 人で組織し、市民運動会、グラウンドゴルフ、卓球、ソフトボール、ビーチボール、少年少女マラソンの各大会を主催しているほか、各自治会で行うハイキングなどのレクリエーション事業を支援している。



市民運動会

(2) 防災対策委員会

自治会、まとい会成木支部、地元消防団、地元交通安全協会、成木小学校、第七中学校、成木保育園、地区の建設業・採石業、JA 西東京小曾木支店、地域の医療機関、駐在所の代表者と地区 4 ブロックの正副指揮者総勢 37 人で委員会を組織している。

毎年 8 月に地域住民が参加し、避難、初期消火、AED の取り扱い、炊き出しなどの訓練を行い、防災意識の高揚等を図っている。

(3) 青少年対策地区委員会

自治会長 2 人と小・中学校長、同 PTA 会長、青梅市青少年委員、駐在と各自治会青少年対策委員等総勢 20 人で委員会を構成している。

事業は、ジュニアリーダーキャンプ教室、釣り教室、少年少女マラソン大会、綱引きの講習会を行い、地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組んでいる。

(4) 成木地区安全・安心の会

平成 19 年 8 月に設置した。構成は防災対策委員会とほぼ同様ですが、青少年対策成木地区

委員会、高齢者クラブ、ふれあい連絡協議会、民生児童委員協議会、環境美化委員会の代表を委員に加えている。

活動は、地区住民の防犯、防災、交通安全に対する意識の高揚と住民の安全・安心の確保を目的に、住民の協力を得て毎日のように防犯パトロールを実施したり、成木小学校防犯ボランティアへの支援ならびに標語看板の掲示やのぼり旗の掲出を行っている。

(5) 成木地区女性防火防災の会

各家庭や地域における防火防災思想の普及や地域と連携して安全・安心なまちづくりを進めることを目的として、平成 21 年 11 月 26 日に会員 30 人をもって会が発足した。

(6) 成木地区教育環境等研究会

成木地区の小学校 3 校が統合するについて、平成 5 年 4 月成木地区小学校教育問題研究会を設立し、成木地区 3 小学校の統廃合の諸問題に対応してきた。

平成 8 年 4 月に成木小学校が開校したことから、残された問題解決に向けて、平成 8 年 7 月成木地区教育環境改善委員会を設立した。さらに、その後における成木地区の教育環境の整備や地域の発展にかかる諸問題を協議する組織として、平成 18 年 8 月に成木地区教育環境等研究会を設立した。

委員は、自治会長、小・中学校長、同 PTA 会長、成木保育園長、支会の推薦した委員 10 人の合計 24 人で組織している。

現在は、小規模特別認定校制度の実施に伴う問題点について検討している。

(7) その他コミュニティ活動

成木地区には成木漁業組合があり、成木川の魚族育成と保護および川の汚染防止に努めるとともに、虹鱒、やまめ、鮎を放流し地域振興を果たしている。

2 丁目で 6 月に開催される「ホテルを見る夕べ」では、淡い光が夏の訪れを感じさせ、地元自治会では特産のジャガイモ等の即販売会を行い地域振興を図っている。

また、4 月には永山公園から高水山山頂までの山岳マラソンを、8 月には成木 7 丁目の上成

木バス停留所をスタートして林道終点の黒山までを走る自転車レースを地元自治会が支援して地域の振興を図っているが、自転車レースについては、平成22年の大会から成木市民センターをスタート地点にして、レースの拡大を図る計画である。



自転車レース

なお、成木地区は、春は安楽寺の桃の花や街道沿いの紫つつじの花、秋には山々が紅葉に彩られるなど、四季折々の風情が楽しめるが、自然が豊かである反面、猪や鹿、ハクビシンによる農作物、果樹および杉、檜の被害も近年深刻な問題となっている。